



埋文だより

第14号

平成9年9月30日発行

復元された9,500年前の集落



(復元住居の様子)

上野原遺跡（国分市）で発掘調査を進めていた縄文時代早期前葉の集落跡は、定住化した集落遺跡として国内最大規模でかつ最古級のものであり、学術的にも貴重な遺跡であることがわかりました。

5月27日～6月20日と7月20日～8月31日まで、発見された遺構を公開しましたところ、県内外から14万人を超す見学者で連日賑わいました。

夏休み期間中の一般公開を終えて、現在は、保存のため埋め戻していますが、遺跡の隣接地に現在の復元した住居に加え、竪穴住居跡や連穴土坑等をそのままの形で復元するほか、展示施設をとりあえず拡充して、土・日曜日・祝日も職員が常駐して公開しています。

目次

頁

- | | |
|-------------------------|----|
| ・「9500年の眠りから覚めた縄文集落」 | 1 |
| —上野原遺跡— | ～3 |
| ・「発掘された日本列島 '97鹿児島展」7ヵ所 | 4 |
| ・埋文友の会のお知らせ | 5 |
| ・おもなできごと | 5 |
| ・～あなたも、遺跡をのぞいてみませんか？～ | 6 |

鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は、
日曜日・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、
入館料は無料です。お近くにお越しの節は是非お立ち寄りください。

9,500年の眠りから覚めた縄文集落

—国分市上野原遺跡—

上野原遺跡の立地

錦江湾の湾奥に位置し、南には桜島、北には霧島連山を眺められる標高 250mの台地上にあります。海にも近く、森も深く、食料となる動物や植物も豊富な場所です。水は20mほど下った場所に湧き水があり、ここで汲んでいたと考えられます。

右：上野原遺跡周辺地図

※地図上の星印が上野原遺跡



集落の全容

調査の結果、竪穴住居跡は46軒、石蒸し料理用の集石39基、燻製作りの穴かと思われる連穴土坑15基、土坑約 125基、浅い谷を利用した道跡2本等が発見されました。住居跡の観察の結果、13軒が同じ時期にあったことがわかり、3～4時期に営まれたことが想像されます。

遺跡は自然の地形をうまく利用していたり、土坑だけが集まった場所があるなど、かなり計画的に集落をつくっている様子がうかがえます。

右図：上野原遺跡の全体図



豊かな調理法

直火で焼いたり、土器でいろんな食材を煮たりする方法以外にも、さらに食生活を豊かにする調理法がみられます。

1. 集石

集石は、石蒸し（焼き）料理の施設と考えられ、真っ赤に焼いた石の上に葉っぱで包んだ肉等を置き、その上に土をかぶせて蒸し（焼き）上げる調理法です。

イメージ画：集石の使用法想像図

(イラストは藤崎光洋文化財主事 画)



2. 竪穴土坑たてあなつどこう

大きな穴と小さな穴をトンネルでつなぎ、大きな穴で火を炊き、小さな穴に煙を通し、煙でいぶす調理法です。イノシシ、シカ等の保存食があったことが考えられます。

イメージ画：連穴土坑の使用法想像図



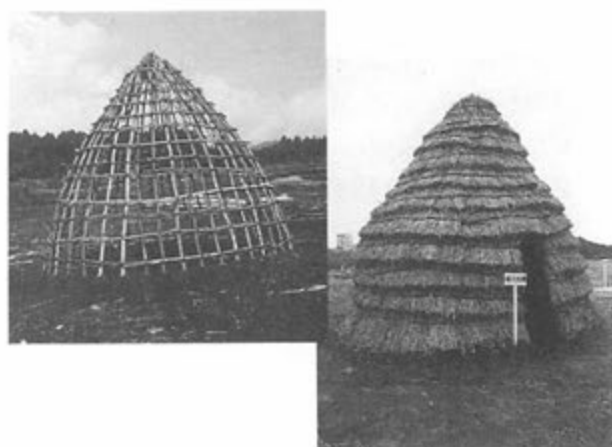
住居の復元

竪穴住居跡は、方形の竪穴を持ち、柱跡は周囲に廻り、垂直に埋め込まれているかたちで発見されました。

これに基づいて、専門家の指導をいただいてドーム型の住居を復元しました。上屋のある復元住居に入ってみると、以外と広い空間であったことがわかります。

写真(左) 復元住居の骨組みの様子

(右) 復元住居完成の様子



年代のきめて

竪穴住居跡の竪穴部に桜島噴出のP-13という火山灰が堆積していました。

放射性炭素14年代測定法という科学的方法で調べた結果、約9,500年前の桜島噴出の火山灰であることがわかりました。したがって、竪穴住居跡を含む集落跡は9,500年よりも古いということが明らかになりました。

写真：竪穴住居跡

※写真の十字ベルトの真ん中辺りの白い部分がP-13



14万人もの現代人と対面

9,500年前の遺跡を一目見ようと、5月26日の記者発表後、5月27日～6月20日、7月20日～8月31日までに14万人を超す見学者が訪れました。

北は北海道、南は沖縄まで、国内全都道府県の方々の他、アメリカや中国等8カ国の外国の方々も見学に来られました。

写真：6月1日の現地説明会見学の様子



「発掘された日本列島'97 鹿児島展」アラカルト

1 概要

当センターの開所5周年記念事業として、7月29日～8月24日まで「発掘された日本列島'97・鹿児島展」が開催され、県内外から8,336名の方々が見学に訪れました。

この展覧会は、全国の最新の発掘成果を示す約600点で構成され、全国6会場を巡回する「中核展」と、鹿児島県で独自に企画した「地域展」及び「記念講演会」の3部構成で行いました。

2 中核展の紹介

旧石器時代から江戸時代にわたる、45遺跡600点の遺物を展示しましたが、いずれも新聞・テレビなどで取り上げられた注目度の高いものばかりです。

なかでも、島根県加茂岩倉遺跡しまねけんか もいわくらで大量埋納まいのうされていた銅鐸どうたくのうちの4点や、昨年5月に公開された奈良県島山古墳ならけんしま やま出土の石製腕飾り等も展示され、見学者の目をひきました。



3 地域展の紹介

地域展では「おおむかしの南九州、豊かな衣・食・住」というテーマを掲げ、とかく実りの少ないと思われがちな鹿児島のシラス台地で、郷土の先人たちが、いかに豊かな生活をしてきたかを理解していただけるような展示を試みました。

(1) 衣

最近の研究で、鹿児島の縄文時代には現代でも通用するような「オシャレ」な布があったことがわかってきました。高尾野町下柵迫遺跡出

土器につけられた布圧痕あつこんを分析し、それに基づいて服を再現しました。

(2) 食

生活の豊かさを端的に表すのは「食」にあることはいうまでもないことです。

そこで、狩猟獲得の手段・調理施設・調理道具・食べかす等を展示しました。

また、南九州の代表的な土器を集め、ピラミッド状に露出展示し、土器の形の移り変わりが一目で分かるような展示を試みました。

(3) 住

上野原遺跡の住居跡を、半分に立ち割った状態で復元し、周囲や内部も再現して、縄文人の暮らしぶりが容易に理解できるような展示を試みました。



4 記念講演会

國學院大学教授の小林達雄先生による記念講演会「南の豊かな縄文文化」が8月10日に行われました。284名の方々が熱心に聴講し、定住し始めた頃の南九州に思いを馳せていました。



埋文友の会のお知らせ

平成7年4月に発足しました「埋文友の会」は、偶数月の第4土曜日に考古学及びその周辺に関する講演を2講座ずつ開催しています。また他にも、発掘体験や遺跡めぐり等の企画も実施し、毎回数多くの参加をいただいています。

本年度は4月26日にスタートし、7月5日には30講座を記念して、県考古学会会長の河口貞徳先生に「南九州縄文時代草創期から早期の諸問題」と題して講演をいただき、数多くの受講者が集まりました。また、8月9日には「発掘された日本列島'97 鹿児島展」・溝辺町東免遺跡ひがしめん・国分市上野原遺跡の見学を行いました。

年会費2千円でどなたでも会員になれますので、関心のある方は御参加ください。お問い合わせは当センター内「埋文友の会」担当まで。



～おもなできごと～

平成9年度人事異動

◎転出者 (H9. 4. 1付)

- 主 査 成尾雅明
(福利厚生課 主査へ)
- 文化財主事 脇岡隆夫
(鹿島村立鹿島小学校教頭へ)
- 文化財主事 西園羊二
(加世田市立小湊小学校教頭へ)
- 文化財主事 大久保浩二
(兵庫県へ派遣)

◎転入者 (H9. 4. 1付)

- 主 査 政倉孝弘
(出水教育事務所主査から)
- 文化財主事 東 和幸
(兵庫県派遣 終了)
- 文化財主事 國生 誠
(指宿市立柳田小学校教諭から)
- 文化財主事 前野潤一郎
(知覧町立知覧小学校教諭から)
- 文化財主事 大保秀樹
(鹿屋市立野里小学校教諭から)
- 文化財主事 安藤 浩
(龍郷町立大勝小学校教諭から)
- 文化財主事 藤崎光洋
(金峰町立大田小学校教諭から)
- 文化財主事 勇 健三
(宇検村立名柄中学校教諭から)
- 文化財主事 立部 剛
(隼人町立隼人中学校教諭から)

◎退職者 (H9. 3. 31付)

- 文化財調査員 宮田茂樹
文化財調査員 竹ノ内有里

◎新規採用 (H9. 4. 1付)

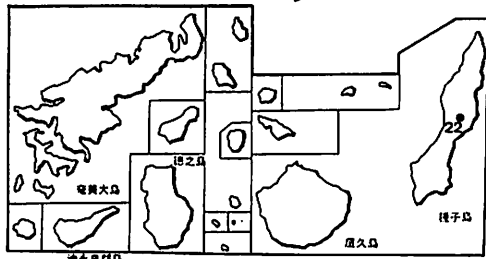
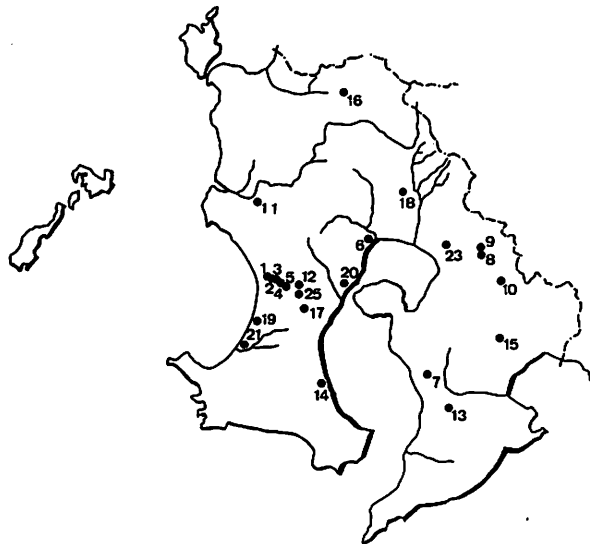
- 文化財調査員 上床 真
文化財調査員 松崎卓郎

- 文化財研究員 藤野義久
(山川町立山川中学校教諭から)
- 文化財研究員 前田 誠
(大口市立大口小学校教諭から)
- 文化財研究員 福永修一
(始良町立山田中学校教諭から)
- 文化財研究員 山崎克之
(国分市立国分中央高校教諭から)
- 文化財研究員 西村喜一
(屋久町立安房小学校教諭から)

- 訃 報 -

当埋文センターの
文化財主事 國生 誠先生が
平成9年7月5日に御逝去されました。

～あなたも、遺跡をのぞいてみませんか？～



詳しい遺跡情報については、センターのおこなう調査は当センターへセンターが支援した調査は当該市町村へお問い合わせください。

埋文センターが支援する市町村関係発掘調査

遺跡名	所在地	調査予定	調査の種類
寺之門	西之表市	5月終了	全面調査
長緑	蒲生町	5月終了	確認調査
向得原	吉田町	6月終了	全面調査
新牧	南種子町	6月終了	全面・確認
西栗須	財部町	6月終了	確認調査
下終迫	高尾野町	6月終了	確認調査
新城	高尾野町	6月終了	確認調査
出水貝塚	出水市	7月終了	確認調査
志良辺堂	知名町	7月終了	全面調査
鶴ヶ岡城跡	東郷町	8月終了	全面調査
小市原	樋脇町	8月終了	全面調査
丸岡	有明町	8月終了	全面調査
大中原	根占町	8月～1月	全面調査
錆河	牧園町	8月～9月	全面調査
上平	南種子町	9月	確認調査
カムイヤキ	伊仙町	9月	確認調査
京塚	中種子町	9月～10月	全面・確認
横峯	南種子町	9月～10月	確認調査
坊ヤ田	和泊町	9月～10月	確認調査
塚崎	高山町	10月	試掘
川ノ上	喜界町	10月	全面・確認
下原3・4	天城町	10月	全面調査
ウギャウ	龍郷町	10月	全面・確認
宮田ヶ丘	始良町	10月～11月	確認調査
中尾	吾平町	11月	全面調査
黒葛	有明町	11月	確認調査
下六反田	日吉町	11月	確認調査
大久保	横川町	11月	確認調査
宮之脇A	東郷町	11月～12月	確認調査
下原C	樋脇町	12月	確認調査
串木野城	串木野市	12月	確認調査
犬木屋	薩摩町	12月	確認調査
屋形尾	郡山町	12月	全面調査
草水原	溝辺町	1月～2月	確認調査

埋文センターがおこなっている発掘調査

	遺跡名	所在地	調査期間	調査の種類
1	市ノ原	東市来町	4/21～3/31	確認・全面
2	向榕城跡	東市来町	4/21～3/31	確認・全面
3	今里	東市来町	4/21～3/31	確認・全面
4	上山路山	伊集院町	5/13～8/31 12/1～3/31	確認・全面
5	永迫平	伊集院町	4/21～3/31	確認・全面
6	小倉畑	始良町	9/1～11/28	確認・全面
7	根木原	鹿屋市	10/1～3/31	確認・全面
8	永磯	福山町	4/21～3/31	確認・全面
9	供養之元	福山町	4/21～3/31	確認・全面
10	桐木	末吉町	4/21～3/31	確認・全面
11	大原野	川内市	6/10～3/31	確認・全面
12	瀬戸頭	伊集院町	9/9～10/3	確認調査
13	中尾	吾平町	7月終了	全面調査
14	鍋尾	喜入町	7月終了	確認・全面
15	二子塚	大崎町	9/16～9/26	確認調査
16	勝毛	大口市	1/5～1/23	確認調査
17	仁田尾	松元町	9/9～10/3	確認・全面
18	東免	隼人町 溝辺町	6/10～9/30	確認・全面
19	埋文センター発掘	金峰町 吹上町	6/23～3/31	確認・全面
20	浜町	鹿児島市	6月終了	確認・全面
21	持鉢松	金峰町	9/1～2/28	確認・全面
22	三角山	中種子町	4/21～5/22	確認調査
23	上野原	国分市	4/21～5/30	全面調査

※ 番号は上の地図の番号と一致

埋文だより 第14号

発行日：平成9年9月30日

編集・発行：
鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-56
鹿児島県始良郡始良町平松6252
TEL 0995-65-8787